

第61回試験研究成果発表会プログラム

<酪農・肉牛部門>

日時 令和5年12月1日(金)

10時00分~12時30分

場所 さんぶの森文化ホール(さんぶの森公園内)

山武市埴谷1904-5

0475-80-9700

1 哺育管理の違いが黒毛和種子牛の発育に及ぼす影響の解明

畜産総合研究センター 乳牛肉牛研究室 三根 琴美

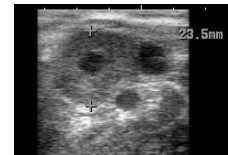
人工哺育において哺乳期間を3週間短縮し、哺乳量を1.2倍にした結果、離乳時の増体低下があったが、対照区とほぼ同等の増体を示した。離乳方法の改善で更なる発育が見込める。



2 ホルスタイン種未経産牛における効果的なショートシンクの検討

畜産総合研究センター 市原乳牛研究所 久保田 尚

ホルスタイン種未経産牛において、最大卵胞が10mm以上且つ2番目に大きい卵胞が8mm以上の個体にショートシンクを処置すると良好な繁殖成績が得られた。



3 気候変動に対応した冬作飼料作物の安定的な栽培技術

畜産総合研究センター 企画環境研究室 鈴木 一好

本県で奨励していた冬作飼料作物の播種期について、イタリアンライグラスで11月上旬まで、年内刈りエンバクでは9月中旬まで延長が可能である。



4 気候変動に対応したトウモロコシ(単播)の安定的な栽培技術

畜産総合研究センター 企画環境研究室 岡庭 就祐

令和3年と令和4年にトウモロコシを6旬別に分けて播種したところ、播種時期の違いによる生育および収量に特徴がみられた。加えて年次間で収量の優れる播種時期が異なった。



5 鹿児島全共で取り組んだ千葉県の早期肥育について

畜産総合研究センター 乳牛肉牛研究室 三根 琴美

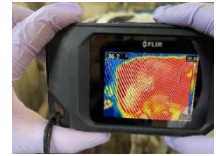
全共出品牛では24ヵ月の早期肥育でも高品質な牛肉の生産が可能であった。出品候補牛の飼養管理や発育、血液性状等の調査結果とともに、早期肥育技術の課題を情報提供する。



6 暑熱対策の違いが乳牛の生産性に及ぼす影響についての現地調査

畜産総合研究センター 乳牛肉牛研究室 倉地 充

要望課題で取り組んでいる乳牛の暑熱対策調査において、今夏の現地における暑熱状況や対策効果等について関係機関と連携し調査を行ったので、その内容について紹介する。



※本発表会は、2月中旬から1カ月間 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」にて動画配信します。

引き続き同会場において、13時30分より公益社団法人千葉県畜産協会主催の講演会

「人とウシの良好な関係を目指して」
—管理者に必要なストックマンシップ—
(講師：東北大学 深澤充准教授)

が開催されます。多くの方の御参加をお待ちしております。

【お問い合わせ先】

千葉県畜産総合研究センター 電話：043-445-4511 FAX：043-445-5447

千葉県農林水産部畜産課 電話：043-223-2939 FAX：043-222-3098

発表予定時刻等は畜産総合研究センターホームページ

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-chikusan/>) をご覧ください。